生活支援体制づくり協議体（地域包括支援センター細江 担当圏域レベル）開催報告書	
１　開催日時	令和　6　年　6　月　26　日　（　水　） 10　時　00　分　～　12　時　00　分
２　開催場所	みをつくし文化センター　大研修室
３　参加者	35名

委員13名（細江地区5名、引佐地区3名、三ヶ日地区3名、事業所等2名）、関係機関20名（浜名福祉事業所(北)長寿保険担当：1名、コミュニティ担当：5名、地域包括支援センター細江：3名、災害ボランティアコーディネーター連絡会：3名、市社協北地区センター：8名）、講師2名

４　協議の内容

１．開会

２．挨拶　　生活支援体制づくり協議体　　会長

今年と来年は、防災について取り組む提案があった。1 年目は勉強して知見を深め、2 年目はどう備えるか、また発災時には自治体や地域は何が出来るのか、皆さんで 3 地区共通する災害対策出せたら良いと思う。

３．自己紹介　　新任 13 名

４．協議内容

①令和 5 年度 第 3 回協議体会議の振り返り　　＊議事録参照

②地域包括支援センター細江から

65 歳以上の相談は年間 2150 件、80 代に加えて 70 代前半の相談が増えて二分化している。介護保険の手続きだけで終わらず、8050 問題も含め、障がいや困窮の担当者と一緒に対応する事例も増えている。

ケアマネージャー・ヘルパー共に足りておらず、急を要する状況でもすぐに対応できないことが多いことをご理解いただきたい。

災害対応に関しては、昨年 6 月の豪雨の際に、高齢者避難の警戒レベル 3 や 4 が出ている中でデイサービスに来ていた独居高齢者を帰宅させてよいか判断に迷ったり、タイムリーな冠水情報が得られなかったりして課題を感じた。

他地区で、電動ベットや人工呼吸器が不可欠な独居高齢者が地域やケアマネと何度も打合わせを重ね、協力を得て避難訓練に参加した事例があった。

③令和６年度　テーマ「災害時の連携について」

Ｉ）細江圏域協議体会議タイムスケジュール

2 年計画で進めていく　自助、互助、共助、公助／各所属や地域状況の把握な

ど

Ⅱ）災害を経験した方のお話
R4.9.23～24 台風 15 号被害
K 様（Ｉ市自治会 R5 年度自治会長）
U 様（Ｉ社会福祉協議会）

Ｋ様
一昨年 9 月 23 日の深夜、台風 2 号の影響で地区内の複数ヶ所で土砂崩れが発生。23 時過ぎに一報を受けたその時からボランティアセンターが閉所するまでの間、どのように行動し、何ができて何ができなかったのか、どのような困りごとや反省があったのか。
発災直後・・現地での初期対応と情報収集、自身の安全確保や行政・警察・消防との連携の難しさ、住民をよく知っているからこそ判断できる避難呼びかけ、車いすの避難
避難所開設・・本来の避難所ではないが平時から食料と簡易トイレの備蓄がある公会堂に臨時開設、警察誘導で地区外の公会堂にも分散避難、朝食対応
翌日の動き・・夜が明けてすぐに被害状況を写真撮影、市へ被災状況を報告しボランティア要請、被災者から要望聞き取り、班長を通じて被災していない住民にボランティア要請・即活動、地域全体を 1 日に 3～4 回歩いてパトロール（その後も毎日続けられた）
翌々日・・・市の災害ボランティアセンターが稼働、消防団の応援も入る、自治会が外部からのボランティアとのマッチング開始
（10 月 21 日の閉所までに約 700 人がボランティア参加）
こういうことが初めてで自治会として何をしていいのか全然わからず、本当にこの活動でよかったのかという思いはあるが、発災時は個人では無理なことは警察や行政に任せて、とにかく避難を呼びかけて状況把握に努めた。翌日一旦帰宅する住民に、非常持ち出し品（常備薬・金品・スマホや携帯）はすぐ出せるように周知した。この時の経験から、翌年以降の台風ではスムーズに避難所開設が出来ている。

Ｕ様
災害ボランティアセンターを立ち上げるかどうか判断する為、発災翌日の午前に市社協は市職員と共に現地調査し、昼には翌々日立ち上げることを決定。全くノウハウがない状態のまま、まずセンター立ち上げを広く広報し、運営や活動の資機材を準備したが、思い返すと無駄が多かった。
ボランティアセンターの三原則は 1 番目に被災者中心、2 番目に地元主体、3 番目に協働。センターにはボランティア受付、被災された方の依頼（ニーズ）受付、更に派遣、その 3 つをマッチングさせる機能がある。地域をよく知っていて、1 日に何度もパトロールしながら情報収集していた自治会がコミュニティマッチングを担ってくれたおかげで、スムーズに運営でき、約 1 ヶ月という短期間で終結することができた。

災害時に必要な比率は 自助 7：互助と共助 2：公助 1 と言われており、自分自身を守りながら助け合わなければいけない。災害が起きてから繋がろうと思っても繋がれるものではない。普段の生活や自治会活動の中で繋がっていて、人それぞれがどういう状況なのかを皆で共有していることが大切。
市は災害に対応しつつ通常業務も行わなければいけないため、地域外からの支援受け入れが重要で、受入調整もセンターの役割。今回は運営スタッフとして市社協職員、災害ボランティアコーディネーター、他市町社協からの支援職員、県職員、“支援Ｐ“と言われる全国的な支援チーム、ＮＰＯなどが集結した。スムーズに受け入れられる“受援力”があると復旧・復興が早い。自助＋共助＋受援力 が大事。
閉所して通常のボランティアセンターに移行した後も、需要があれば都度対応し、半年後に独居者や被害が大きかった方を訪問して事後フォローした。

Ⅲ）意見交換、情報交換

NM：お配りした参考資料 1 は全国社会福祉協議会の民生部が能登半島地震において民生委員を対象とした資料の抜粋。資料 2 は民生委員の活動に関する資料で、これが今の民生委員の行動指針。3 は香川の自主防の連絡協議会の資料。4 は夢風基金という障害者を支援する団体の、障害を持っている側から防災を見た文章。インクルーシブ防災、もうそういうことまでやってかないけない時代に変わってきているということで提供させていただいた。

I：H 特別養護老人ホームさんの防災メモをお配りした。地域と一体になって施設も利用していただけるような状況を作りたいという施設長の思いで「地域でお困りの時は避難施設としてお使いください」と公開されている。以前、近隣には自治会を通じて配布したとのこと。先日訪問した際に、今日のこの会議で情報共有して良いとのお話だった。
それと、今の自然災害に適用した防災訓練をしていかなければいけないし、近所付き合いもいろいろな形で変化していかないと、命を守る・繋いでいくっていうところには到達しないのではないかと感じた。

T：昨年 6 月の豪雨の際、民生委員の本部から「心配される方の安否確認をするように」と指示があったが、このような時にどうするのか共通認識がなくて大変困った。まず命を守る、次に命を繋ぐ、そして復旧という段階ごとに、民生部として考えていかなければいけない。
福祉の 1 番大事なことは、安心・安全に暮らせることで、その根本は“何かあった時の安心・安全が地域で確保できている”ということではないか。所属の自治会連合会で、民生部としてできること、できないこと、協力していきたい旨を話したが、協議体はいろいろな地区や立場の方々が集まるので、もっと深めた議論ができればと思う。

YM：自主防災会の会長として、住民自体に自分が住んでいる所はどういう危険性があるのかを十分理解してもらうところから始めないと防災訓練の意味がないということが分かった。河川の氾濫や用水の内水氾濫の危険地帯もあるが、土砂災害の方が被害甚大と思われるので土砂災害対策を優先したい。
金指の土砂災害危険地帯に該当する所では、現場を見てもらいながら浜松市の防災マップを使って説明をして、土砂崩れが起きた時のことを具体的に想像してもらう活動をやった。今後はそこで得た知識や危機感を持ちながら、2年ほどかかるかもしれないが、自分たちの避難行動計画を策定するところまでいきたい。

S：自治会が住民を知っていることが大事なので、地区社協で家事支援やゴミ出しをしている方を自治会にも繋いでおくのが大事だと思う。
親子防災活動のように日常生活の中で楽しみながら、備蓄品をローリングストックするのも大事。
助けてもらうという点では、災害支援協定というのが行政単位で出来ているので、浜松が全部ダメになった場合、東はさいたま市が、西は堺市が直ちに来るし、浜松には自衛隊の基地があるから東北の部隊がたくさん支援物資を飛行機で持ってきてくれる。遠いところからも助けてもらえるっていうことを頭の中に入れておいて、助けてもらうことも前提に、自分たちがどうしたらいいのかなと考えたらいい。

NZからK様へ質問
Q1. 避難所の開所はどのくらい続いた？
　A2.　2日開けたが、みんな家が心配で1日で帰った
Q2. 避難所の備蓄は？
　A2. 備蓄米がローリングストックしながら5年分、簡易トイレ有、間仕切り無
Q3. 要介護者への対応は？
　A3. リストを見ながら対応。近くの若者や消防隊に頼んで行ってもらった
Q4. 安否確認は？
　A4. 発災時はとてもじゃないけどできなかった、今後は班長が確認して自治会に報告

YOからK様へ質問
Q. 150軒の被災・避難状況をどのような形で把握？
　A. 全戸が被災したわけではないし、避難を促した一部の人だけが避難したので把握できた、後から確認しにいった家もあった

５．第2回開催日程~~（案）~~について
　令和6年10月28日（月）10：00～　　みをつくし文化センター　大研修室
　　＊事前打合せ(正副会長)；9月27日（金）10：00～　北地区センターデイルーム

６．その他

参考資料 1～4、地域の皆様へ（H 特別養護老人ホーム防災メモ）

７．閉会　　生活支援体制づくり協議体　　副会長

今日は結構重要な話が出たので、自分のところに戻って、これからどのような形で防災と向き合っていくか、どういう関わりを持っていくかを考えていただきたい。本日はお疲れ様でした。

５　今後の見通し・必要な対応	

・2年計画で、災害時の連携について協議する。1年目の本年は関係機関や災害を経験した方から話を聞きながら、災害を身近に感じ、知見を深めていく。

・昨年までのごみ出しの問題も、課題が挙がってきた場合には共有をしていく。